



## 1 特別企画 白井和弘氏の想いを繋ぐ (P.1)

### (1) 企画趣旨

東京都 多摩立川保健所・多摩府中保健所  
歯科保健担当課長 柳澤 智仁  
【行歯会 編集担当理事】

### (2) 故 白井和弘君を偲ぶ

岩手県 県北広域振興局保健福祉環境技監心得  
兼 岩手県久慈保健所・二戸保健所 所長 森谷 俊樹

### (3) 白井和弘先生との思い出

北海道 札幌市保健福祉局保健所  
成人保健・歯科保健担当部長 秋野 憲一

### (4) 同じ年齢になりました。

秋田県 健康福祉部健康づくり推進課  
技師 田所 大典

## 2 「管理職の目線で見えてきた世界<その5>」 (P.6)

長野県 健康福祉部健康増進課  
健康増進課長 田上 真理子

## 3 第82回日本公衆衛生学会総会報告 (P.7)

島根県 健康福祉部高齢者福祉課  
地域包括ケア推進室 主幹 中島 和子

## 4 第82回日本公衆衛生学会総会・自由集会参加報告 (P.9)

茨城県 中央保健所保健指導課  
係長 瀧澤 伸枝

## 5 災害歯科保健医療アドバンス研修会参加報告<東日本ブロック> (P.10)

北海道 上川総合振興局保健環境部保健行政室(上川保健所)  
医療参事 新里 勝宏

## 6 都道府県 世話役のつぶやき (P.11)

岡山県 岡山市保健所健康づくり課  
医療専門監 河本 幸子

## 7 第44回全国歯科保健大会及び第31回全国歯科保健推進研修会開催報告 (P.12)

秋田県 健康福祉部健康づくり推進課  
技師 田所 大典

## 8 【報告】日本歯科医師会高橋英登会長を表敬訪問 (P.13)

奈良県 福祉医療部医療政策局健康推進課  
主任調整員 堀江 博  
【行歯会 会長】

# Ⅰ 特別企画 白井和弘氏の想いを繋ぐ

## (1) 企画趣旨

東京都 多摩立川保健所・多摩府中保健所  
歯科保健担当課長 柳澤 智仁  
【行歯会 編集担当理事】

早いもので18年の月日が流れようとしています。

秋田県健康福祉部に勤務していた白井和弘さんが2005年12月25日19時15分頃発生したJR羽越本線特急いなほ脱線転覆事故の犠牲となり、御逝去されました(享年34)。一報に接した際の衝撃は今もまだ鮮明に覚えています。茫然自失とはまさにこのこと、と今改めて思う次第です。

大学院生の時分、秋田県横手市をフィールドにした研究で御一緒させていただき、業界団体や住民等様々な立場の方と、笑顔を絶やすことなく、物腰柔らかかに調整する背中を拝見していました。行政職とは外交官である、とは私の恩師からの教えですが、参加する全ての立場の方が満足する状況を作り出すべく動かれる姿は、まさにその言葉の如し、でした。仕事のお姿も忘れることはできないのですが、食事をしながら交わした会話は、未だ大切な宝物です。一度、失礼を承知で、行政の仕事って面白いですか?と伺ったことがあります。その時、ほぼ即答で、ニコニコしながらおっしゃいました。

「面白いですよ。歯科の仕事って個人対個人になりがちですけど、私たちの仕事って集団対集団なんです。色々な職種の人たちと協働で新しく作り上げていくものが、住民の皆さんの笑顔につながるんです。大変な時もあるけれど、すごいやりがいがあって面白いですよ」

7歳年下の私にもフラットな目線で語りかけてくださった白井さんの言葉がきっかけの一つとなり、私は行政職を志し、今日に至っています。白井さんが亡くなられた時の年齢を遥かに越えた今も、この言葉が傍らにあります。

まさに烏兔忽忽、東日本大震災をはじめとする災害対応や、新型コロナウイルス感染症対応等、様々なことが頭上を通り抜ける間に、行歯会加入メンバーも世代交代が進み、秋田県のために奔走し続け、志半ばで鬼籍に入ることとなった白井和弘さんという存在を、御存知ない方も多くなってきました。

魂の伝承と申し上げるのは大袈裟かもしれませんが、私自身、行歯会だより編集担当理事になった暁には是非とも企画すべしと温めていた折、関係各位から快く寄稿をいただく運びとなったため掲載することといたしました。亡き白井さんを偲びつつ、残してこられた業績や仕事ぶりを、森谷さん、秋野さん、田所さんに、同じ時を過ごした立場や引き継ぐ立場から記していただくことで、往時の姿やマインドを伝えられればと思っています。

白井さんの想いが届き渡ることを祈りつつ。



在りし日の白井さん。  
どんな時もこの笑顔で包み込んでくれました。  
(写真提供:秋田市子ども健康課 福司郁子様)

尚、本企画に際し、田所理事に調整いただき、白井さんの御家族から写真掲載にかかる許可をいただいておりますこと申し添えます。白井さんの御家族にはこの場を借りて、御礼申し上げます。

また、本来ですと著者写真等を掲載するところですが、企画趣旨を鑑み、白井さんの写真掲載に主眼を置くため、著者写真等については割愛しておりますこと御理解ください。

## (2) 故 白井和弘君を偲ぶ

岩手県 県北広域振興局保健福祉環境技監心得  
兼 岩手県久慈保健所・二戸保健所 所長 森谷 俊樹

2005年12月25日の夜に発生したJR羽越本線脱線事故にて、大学からの友人である白井君が亡くなりました。翌日の朝に仕事場に連絡が入りましたが、少し前まで会議で一緒だったり、電話で仕事の打合せをしたりしていたのでショックは大きいものでした。あれから2023年12月25日で18年。毎年、年末になると彼のことを思い出します。

長崎大学では、学籍番号が離れていて実習は別グループでしたが、関東地方とその周囲の学生でなにかと集団を形成していました。その中でも彼は静岡県下田市出身、私が神奈川県小田原市出身ということで地理的にも近くて親近感があり、行動を共にすることが多くありました。特に、お互いの実家に帰省する際には、青春18きっぷで長崎駅から熱海駅まで一緒に移動し、佐賀、福岡、大阪等で途中下車して観光したこともありました。また、私が授業のない土曜日に長距離走の練習をして学食で食事をしようとする、水泳部の練習を終わって学食で食事をしている彼がいて、一緒に食事をする機会がなぜかとても多かった記憶があります。

1995年3月に大学を卒業後、偶然にも彼は東京医科歯科大学歯学研究科総合診断部の大学院に進学し、私は同大学の予防歯科学講座の大学院に進学しました。在学中は御茶ノ水駅界隈で一緒に食事したり、総合診断部の研究室や本郷にある彼のアパートを訪ねたりしたこともありましたが、お互いに大学院生活が忙しくて、大学の時よりも会う機会は少なくなりました。

大学と大学院の10年間で私から見た彼の印象は、まっすぐで真面目、礼儀正しく、付き合いも良いという感じでした。なかでも、一番は真面目さですね。勉強も部活も一生懸命に取り組んでいましたから。

お互いに1999年3月に大学院を修了し、別々の道に進みましたが、2001年には大学時代の友人の結婚式と一緒に熊本まで行ったこともありました。そして2004年4月から私は岩手県に行政歯科医師として勤務することとなり、偶然にも彼は隣県の秋田県庁で勤務しているという状況になりました。

彼が事故で亡くなるまでの1年9か月の間、北海道・北東北3県が連携して実施していた歯科保健事業で、年に何回も顔を合わせながら一緒に事業をすることができました。一緒に仕事をしてみて、今まで私が知っていた彼の真面目さの他に、歯科保健に対する彼の熱い思いに触れたことを覚えています。この熱い思いが、秋田県での集団フッ化物洗口事業の前進に繋がったことを感じるとともに、秋田県の行政歯科医師に代々引き継がれていることを嬉しく思います。

最後に、大学時代の友人の結婚式と一緒に熊本まで行き、空いていた時間に二人で熊本城を観光した時の写真をお見せします。彼は真面目でしたけど、見てのとおりノリも良かった男でした。



2001年熊本城にて  
筆者(左)、白井君(右)



2001年熊本城にて  
白井君(左)、筆者(右)

### (3) 白井和弘先生との思い出

北海道 札幌市保健福祉局保健所  
成人保健・歯科保健担当部長 秋野 憲一

2005年のもう仕事納めも近いある日、テレビではJR羽越本線特急いなほの脱線事故のニュースが繰り返し流れていた。事故報道によくある犠牲者の生前の姿やご功績が報道され、惜しい方々が亡くなってしまったんだな、今時、強風ぐらいで脱線事故が起きるんだな、と思いつつ、身元が判明していない方がいることが、普段であれば気にもならないはずが少し心に引っかかっていた。

師走の繁忙に追われてそんなニュースも忘れかけていた時に、秋田県庁からの電話が鳴った。いつもなら白井先生からの電話のはずだが、名前も聞いたことがない秋田県職員の方からの電話だった。

「白井がナクナリマシタ」

私は最初、何を言われているのか全く理解できなかった。その後、どのようなやりとりをしたか覚えていないが、白井先生が脱線事故の犠牲になったことを、かなり時間が経ってから理解した。

当時、北海道、青森県、秋田県、岩手県の4知事の発案で、4道県が共同で健康づくり事業に取り組むこととなり、歯科保健もひとつのテーマとなっていた。白井先生は、厚生労働省から秋田県庁に出向されており、この事業で一緒に仕事をさせていただく機会を得た。白井先生と初めてお会いしたとき、白井先生は、私よりも3歳年長であったにもかかわらず、「歯科保健では、秋野先生の方が私よりも先輩ですから、色々教えてください!」とご挨拶頂いた。年上の、それも厚生労働省の歯科技官の先生からそんなことを言われて随分恐縮したことを覚えている。

その後、白井先生には大変親しくしていただき、青森県の浅虫温泉で湯船に浸かりながら、まさに裸のつきあいで、深夜まで時間を忘れ、地方自治体の歯科保健事業の方向性について語り合ったり、札幌ススキノでラーメンを食べながら、秋田県のフッ化物洗口事業の展開について色々教えて頂いたりした。

特に、秋田県のフッ化物洗口事業は、猛烈な反対運動に遭い、県議会議員やマスコミから叩かれ、全国的にもその成否が大きく注目されていた。白井先生は、反対運動に対して、決して感情的に応ずることなく、粘り強く話し合いを続けられていた。

当時の私は、北海道庁の地域歯科保健の責任者であり、フッ化物洗口事業の反対活動に自分が十分に対応できるのか、役所の中にも反対している人は少なくない、頓挫するリスクも小さくないフッ化物洗口事業に北海道庁として着手すべきかどうか自信を持ち得ていなかった。そんな私の迷いを見透かすように白井先生は仰られた。

「フッ化物洗口はやれば必ず子供たちのむし歯が減るじゃないですか。多くの子供たちを病気から守ることができるのに、やらない理由はないですよ。」

一ミリの迷いもない自信に満ちた笑顔だった。「そうだ、確かにやらない理由はない。」失敗することを恐れて踏み出すことができなかった私にフッ化物洗口事業に取り組む決意をさせた瞬間になった。

現在、秋田県の12歳児のむし歯の状況は、都道府県順位で44位(平成19年)から、全国8位(令和3年)と劇的に改善し、公衆衛生行政の取組として目覚ましい成果を上げている。白井先生が、秋田県庁で地域歯科保健に取り組まれたのは、わずか1年9か月。しかし、今現在も、白井先生が口腔崩壊になっていたであろう秋田県の多くの子供たちを救っている。

最後に白井先生が生前、私に仰ってくださった言葉を行歯会の会員の皆さんにも紹介して稿を閉じたい。

「地域歯科保健は、事務職の方や保健師さんや歯科医師会の先生方と一緒に新しいものを創り出せるので、すごく面白いですよ。その上、住民の皆さんのために直接働ける、こんなやりがいのある仕事はないじゃないですか。」

#### (4) 同じ年齢になりました。

秋田県 健康福祉部健康づくり推進課  
技師 田所 大典

白井先生は、私の4代前の秋田県の歯科保健を担当された歯科医師です。

「白井先生の想いを繋ぐ」というテーマにおいて、まさに私が白井先生の後任の1人として、その後を引き継ぐ役目を務めさせていただいていることから、今回の特別企画にあたりお声がけいただいたことに大変感謝しております。

御遺族とは今でも毎年手紙の交流がある一方で、実は私は白井先生に直接お目にかかったことはありません。つまり、私の白井先生像は、周囲の方々から伝え聞いた想像ですが、同時に、歯科保健事業を通じて残してくださった道標そのものでもあります。現在では、「白井記念歯科保健功労賞」として、歯科保健の推進に功績のあった個人や団体を表彰することで、白井先生の想いを引き継いでいます。

私の白井先生像として1番に出てくるのが、当県におけるフッ化物洗口事業開始の立役者というお姿です。

平成16年当時、当県の12歳児のう蝕経験歯数は全国ワーストクラスでした。そうした状況を鑑み、白井先生を中心に「フッ素で守ろう秋田っ子の歯」をキャッチフレーズに、おロブクブク大作戦事業(フッ化物洗口事業)を開始しました。

当初は、県民はもちろん、職員の理解を得ることさえも相当な御苦勞をなさったと伺っております。

しかし、そうした苦勞を感じさせない前向きな姿勢で、頂いた御意見の1つ1つに対し、丁寧に全力で説明を尽くした白井先生がいらしたからこそ、全国でも屈指のフッ化物洗口実施率と、う蝕減少率を誇る現在の秋田県があることは間違いありません。

事故当時も、翌朝に新潟県で開催されるフッ化物洗口関連の会議に出席するために移動している途中の出来事でした。当時34歳、奇しくも今年、白井先生と同じ年齢になった私を、天国からどのように御覧になっているのでしょうか？

最期の最期まで県民の健康のため全国を駆け巡り、人生を賭して現代に想いを繋いでくださった白井先生とその御家族に、心から敬意と哀悼の意を表するとともに、歴代の先生方からの意志を引き継ぎ、今日この原稿を書かせていただいたこと、天国の白井先生に報告させていただきたいと思っております。



脱線事故現場に建てられた慰霊碑に献花する  
筆者(左)と県歯科医師会の松野常務理事(右)



秋田県庁で業務にあたる白井和弘先生

## 2 「管理職の目線で見えてきた世界<その 5>」

長野県 健康福祉部健康増進課  
健康増進課長 田上 真理子

行歯会の皆様、いつも大変お世話になっております。日ごろは様々な役立つ歯科口腔保健情報をいただき、ありがとうございます。厚生労働省より、令和 4 年度から長野県へ出向しております、歯科医師の田上真理子(たのうえ まりこ)と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

今回のテーマ「管理職の目線で見えてきた世界」、言い換えると、「長野県で、私が初めて健康増進課長になって心がけていること」は、以下の 3 つです。



長野県 PR キャラクター  
「アルクマ」と共に

- (1) 「県民の健康づくりのためには、課内職員が心身ともに健康であること」
- (2) 相手に「伝える」でなく、「伝わる」言語明示
- (3) 地域に調和した施策展開に向けた、俯瞰的視点によるマネジメント

### 1 長野県出向の経緯

私は、大学病院で臨床を数年経験し、人事交流を経て、プロパーの厚生労働省歯科技官になりました。長野県への出向を命じられたのは、プロパーになってから 1 年後の令和 3 年度末でした。

長野県では、平成 22 年度に「長野県歯科口腔保健推進条例」が制定され、「長野県歯科保健推進センター」が設置されました。条例制定から約 10 年が経過した令和 3 年度、条例の一部改正を行い、県が行うべき基本的事項として「定期的に歯科検診等を受けるための取組の推進」、「オーラルフレイル対策の推進」を含む 6 項目を追加しています。

令和 4 年度からは、センターの運営を含む歯科口腔保健事業の所管を「保健・疾病対策課」から「健康増進課」へと移して、健康づくり施策と連動した歯科口腔保健の推進を目指していく方針とのこと。長野県から私への依頼は、追加された基本的施策の具現化のため、歯科医師の専門的知見を生かし、歯科口腔保健に関する新規事業の立ち上げや、関連事業の拡充を先導してほしいというものでした。

新しい事業に自分が主要メンバーで携われることは光栄ですし、きっと良い人生経験になるだろうと思い、長野に向かったものでした。

### 2 初めての県行政

当職の経験値が考慮され、出向 1 年目は、健康福祉部健康増進課 歯科口腔保健推進医監という課長補佐級の身分で県行政が始まりました。当時の私の役割は、歯科関係組織・団体と連携しながら、歯科口腔保健に関する事業を円滑に実施していくことでした。

県行政自体が初めてでしたので、歯科担当の歯科衛生士や事務官の助けを借りながら、長野県の特性を学びました。また、本年度が最も歯科口腔保健のみに集中できる期間だろうと思い、次年度以降の事業についても準備を進めました。

管理職への準備として、当時の課長の仕事ぶりを隣で見させていただいたことは、大いに勉強になりました。当課は、15 名という少ない陣容で、生活習慣病予防・食育・歯科口腔保健等の健康づくりから、高齢者の生きがいつくりまで、幅広い施策を担当しています。一人ひとりの業務量が多く大変なのですが、当時の課長が積極的に職員に声掛けすることで、課内で相談しやすい職場環境が作られていました。そのため、若手職員も担当分野をしっかりと考えて対応案を課長に提示するなど、仕事に真摯に取り組んでいました。職場環境は、課長の言動で作られると実感しました。

### 3 課長に昇格して

出向 2 年目、健康増進課長を命じられました。課のマネジメントという初めての役割が生じます。私が普段心がけていることを記載します。

- (1) 「県民の健康づくりのためには、課内職員が心身ともに健康であること」

これは、先述のとおり、出向 1 年目の経験から培ったものです。業務が大変な職員には、心身の健康に問題はないか声掛けし、業務遂行の御礼を伝えるよう心がけています。また、職員に「自分はどう考えるか」を聞いて、協議しながら業務方針を決定するようにしています。明るく相談しやすい職場環境づくりが、事業のPDCAをうまく回す環境づくりに繋がると考えています。

## (2) 相手に「伝える」でなく、「伝わる」言語明示

課長級職員研修に参加する機会があり、私が非常に参考になったことは、相手に「伝える」でなく、「伝わる」言語明示の訓練をすることが大切ということでした。知事や部長などの上司に説明を求められるとき、課内職員に業務を依頼するとき、県民の皆様へ啓発するとき。相手の記憶に残り、行動変容を促す話術が重要になります。

私の場合、上司には行政の長い文章を端的に説明すること、課内職員には業務の目的を説明してから依頼すること、県民の皆様には緩急をつけた話術で啓発すること、を心がけています。

## (3) 地域に調和した施策展開に向けた、俯瞰的視点によるマネジメント

これは、心がけていることでもあり、そうせざるを得ないのが管理職の世界かと思います。課長になって、課内すべての施策を把握し、財政、協力者(関係団体、市町村等の保険者、企業、学校等)、各地域の環境等を俯瞰的に見て、長野県に調和した施策を展開していくことを目指しています。出向1年目と大きく変わった点です。

また、課のマネジメントとして、県議会一般質問の答弁案は、課長である私が率先して作成するようにしています。当課は係長級がおらず、課長補佐は多くの通常業務を抱えています。そのような課の状況を考慮して、議会などの変則業務は私に対応し、職員には通常業務を肅々とこなすことを優先してもらっています。本省では想像できなかったことですが、自分の属する課に調和したマネジメントを行うことも管理職の役割であると思います。

課長になって、歯科口腔保健についても、単に「県民に関心をもってもらうためにはどうしたらよいか」と考えるのではなく、「広義の『健康づくり』という施策のなかで、運動・栄養・社会参加等の分野とうまく調和させて事業展開していくためにはどうしたらよいか」と考えるようになりました。

様々な分野と連動させて、長野県の多くの皆様へ歯科口腔保健について関心を高めてもらうこと、そして健口から健康になってもらえることを目指し、健康増進課長として日々邁進してまいります。

## 4 課長に昇格して(補足)

長野県議会健康福祉委員会における委員質疑は、事前通告がありません。どのような質問がくるのかと毎回非常に緊張します。相手の質問に対する意図を聞き取り、例え回答を持ち合わせていなくとも、落ち着いてできる限りの回答をするという度胸も課長には重要だと、身をもって経験しております。

# 3 第82回日本公衆衛生学会総会報告

島根県 健康福祉部高齢者福祉課  
地域包括ケア推進室 主幹 中島 和子

## 1 はじめに

行歯会の皆様には、日頃より有益な情報やお知らせをいただき感謝申し上げます。

この度、公衆衛生学会の報告を……とお声がけいただきました。自己紹介や島根県の様子を紹介しつつ、学会の様子をお伝えいたします。

## 2 自己紹介

私は島根県出身で、県内唯一の養成施設 島根県歯科医師会立島根県歯科技術専門学校 歯科衛生士科を卒業しました。平成2年に卒業、すぐに島根県に入職、就職して33年です。その間、各保健所、県庁勤務、現在は高齢者福祉課地域包括ケア推進室に所属し、主に介護予防や訪問看護の体制づくりを担当しています。



## 3 県内の歯科職種

知事部局の歯科職種は、歯科医師は1名で益田保健所の梶浦所長、歯科衛生士は、10年に1名くらいの間隔で採用されていて、県の西部・浜田保健所に加戸さん、東部・出雲保健所に林さん、加えて私の3名です。

歯科口腔保健では、行政への配置は少ないですが、歯科医師会・歯科衛生士会・歯科技工士会が非常に協力的です。計画策定ももちろんですが、各種事業への協力、よりよい事業になるためのアドバイス等々、日常的に気軽にやりとりさせ

てもらっています。

#### 4 公衆衛生学会との出会い

「学会には最低、二つは所属したほうがいいですよ」

夏ゼミで、ある先生に教えていただいた言葉です。地域保健に関わる歯科職種がきちんと情報収集する方法として、学会員であることを教えていただいたように思います。

初めて参加したのは1998年、岐阜県の学会でした。当時、私が勤務していた保健所の所長が全国保健所長会の会長をしており、学会に入りたい旨を話し、推薦書の記載を依頼すると「学ぶこと、活動をまとめることを大事に続けてください」と言葉をかけてもらい、今も大事にしています。それから、定期的に発表することを意識し、今回が6回目の参加となります。

#### 5 今回、学会に参加して

##### (1)発表内容

今回のメインテーマは「実践と研究のシナジーが織りなす保健医療介護サービスの進化と調和」であり、自分の今の業務と関連するのでぜひ参加したいと思いました。

ちょうど、島根県が地域包括ケア推進スタッフを配置して10年、同じ職場の方がその経過を第1報として発表、私は、第2報として、全県的に入退院連携を推進しようと平成26年度から取り組んでいますので、その成果をまとめました。

内容としては、情報提供書をツールとして医療・介護の連携体制の実態を把握し、二次医療圏単位にPDCAサイクルを回していこう、という取組の背景、経過、成果をまとめました。



第1報を発表した  
嘉藤さんと共に

### 【目的・背景・取組経過】

**新たな取組へ**

各圏域と全県の運動した動き

起点となった調査  
入退院時情報提供が出来ていないケースがあることをふまえて、「フォローアップ調査」等を提言

H26 実態把握を実施

H28～ フォローアップ調査を開始

H30～ 島根県入退院連携検討委員会設置

R2 全県への波及  
※今回の発表の中心

R5(復活) 各種計画の指標に活用へ

R3-4年度 コロナ禍により調査休止

### (具体例)雲南圏域の成果

成果① 入退院連携の検討の場

成果②入退院連携のマニュアル作成

成果③共通入退院連携シート

成果④入退院連携のコツをバインダーにして活用

雲南圏域市町村のみなさんと「連携がうまくいくTips」バインダー

##### (2)色々なシンポジウム等に参加して(印象的なもの)

###### ① 肺炎予防のシンポジウム

入退院を繰り返す方とそうでない方、唯一有意差があったのは、定期的に歯科受診をしているかそうでないか、だそうです。歯科受診の必要性をもっと伝える必要がある、と産業医科大学松田先生の言葉が印象に残りました

###### ② 身体活動のシンポジウム

身体活動の指針の改定の動きも情報収集できました。また、身体活動量を増やすには「環境づくりが重要」という言葉が印象に残りました。今後は衛生部局のみでなく、土木・建設の部局との庁内連携で公園の場所などの考え方が大事ということでした。



肺炎予防のシンポジウム 質疑応答の様子  
肺炎予防には定期的歯科受診の必要性を伝えることが重要であると、産業医科大学の松田先生より語られました



### ③ イワサキの食品サンプル(業者の出展ブース)

食品サンプルで有名なイワサキです。国立保健医療科学院の安藤先生に教えていただきました。一つの食品のペーストから刻み(3段階程度まであり)まで一体となったわかりやすいサンプルができています。管理栄養士さんのレベルでは学会基準等が作られていて、施設・病院間で共有出来るようになっていますが、現場の調理する皆さんが理解するための有用なツールだと思いましたし、歯科診療所でも、義歯装着の方の後期高齢者の歯科口腔健診などの問診ツールとして、「どれくらいの大きさなら食べられる?」と確認しやすくなるのではないかな、と思いました。

### (3)全体を通して

今回の学会は、介護分野を意識した発表が多かったこと、コロナ禍の影響、その経験からの事業の再構築などが多くの発表の視点に入っていたように感じます。その年々で、トレンドがあるな、と改めて思いました。そして、学会を通して多くの方と知り合えたこと、島根県から参加した所長さんたちとも「対面っていいね!」と学会が終わった後も話しているところです。

最後に、開催県として、瀧澤さん、お疲れ様でした。

### (追伸)

仲良くなった歯科衛生士さんと食べたモンブランの美味しさは格別でした!

来年は、北海道です。また多くの皆さんと出会えること(&美味しい食べ物)が楽しみです。

## 4 第 82 回日本公衆衛生学会総会・自由集会参加報告

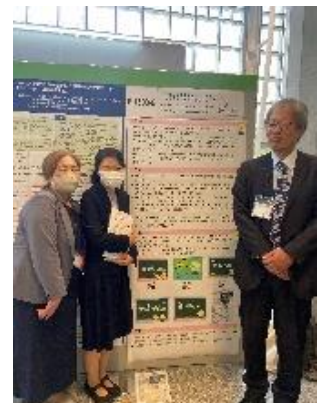
茨城県 中央保健所保健指導課  
係長 瀧澤 伸枝

行歯会の皆様、いつも大変お世話になっております。また、いつも貴重な情報をいただきありがとうございます。茨城県中央保健所の瀧澤と申します。

10月31日から11月2日の3日間、「実践と研究のシナジーが織りなす保健医療介護サービスの進化と調和」をメインテーマとし、第82回日本公衆衛生学会総会が茨城県つくば市で開催されましたので、その概要を報告します。

### 1 口演、示説(口腔保健)

初日の10時30分より19名がポスター発表、同日14時25分から6名が口演発表をされました。すべて大変興味深い発表であり、各会場で熱い議論が交わされました。本県からは県嘱託歯科医である北見先生が「歯と口の健康教室～喫煙が口腔に及ぼす影響～アンケート結果」、県健康推進課の宮本技師が「茨城県における就学前施設を対象としたフッ化物洗口の取組みについて」それぞれポスターにて発表しました。発表終了後も多くの先生方からアドバイスをいただくことができました。



共同演者と共に  
写真中央が筆者

### 2 自由集会「公衆衛生における歯科保健を考える～基本計画改定から描く歯科保健の未来～」

同日18時30分より自由集会が開催され、お忙しい中34名の方に参加いただきました。受付、会場セッティング等、行歯会の皆様方には大変お世話になりました。秋田県の田所理事が司会をされ、愛知県の小栗副会長に開会のご挨拶をいただきました。

#### (1)公衆衛生における歯科保健を考える～基本計画改定から描く歯科保健の未来～

国立保健医療科学院統括研究官の福田先生より、10月5日に告示された歯科口腔保健の推進に関する基本的事項の全部改正の内容について御講演いただきました。歯科口腔保健パーパス、歯科口腔保健の推進のためのグランドデザイン、歯科口腔保健の推進に関するロジックモデル、歯・口腔の健康づくりプランにおける目標・指標・参考資料について分かりやすく説明いただきました。

#### (2)茨城県の歯科口腔保健に係る計画について

茨城県保健医療部健康推進課の瀧澤(筆者)より、現計画である第3次健康いばらき21プラン(歯科口腔保健)の概

要及びその特徴、本県独自の指標項目、目標値設定等に苦慮している指標項目、他計画との整合性などについて説明しました。

### (3) 討議

目標値設定等に苦慮している指標項目について、田所理事、福田先生、出席者などからご意見をいただきました。必ずしも国の指標項目や数値と一致させる必要はなく地域の実情に応じたこと、他都道府県での指標項目の決め方等、活発な討議が行われました。

## 3 シンポジウム「みんなで進める地域での歯科保健活動の将来」

最終日の13時10分よりシンポジウムが開催されました。厚生労働省医政局歯科保健課歯科口腔保健推進室の和田室長より「歯・口腔の健康づくりプラン」について分かりやすく御講演いただき、東北大学大学院歯学研究科の小坂教授より口腔と全身の健康との関連性について最新の研究結果を基に御講演いただき、港区みなと保健所の二宮課長より具体的な歯科健診の取組について御講演いただき、東京医科歯科大学の相田教授より効果的に人々の健康を向上させるPDCAサイクルについて御講演いただきました。

## 4 最後に

私自身5年ぶりの対面での学会に参加し、「保健所・衛生行政・地域保健」のセッションで7年ぶりにポスター発表をしました。地元開催ということでアットホームな環境で発表することができ貴重な経験となりました。

遠方でも参加できるオンラインの学会もよいのですが、多くの先生方と情報交換ができる対面での学会の利点を改めて感じる事ができました。

皆様、ぜひ来年度は札幌市にお越しいただければと思います。



## 5 災害歯科保健医療アドバンス研修会参加報告<東日本ブロック>

北海道 北海道上川保健所・北海道立旭川高等看護学院長  
医療参事 新里 勝宏

令和5年度の東日本ブロック対象の標記研修が10月9日(月)、日本歯科医師会館で開催されました。

小職が最後に日歯会館を訪れたのは、コロナ禍前の2019年(この際に災害歯科保健医療体制研修を受講しました)で、4年ぶりです。何分田舎者なもので、複雑な地下鉄の乗り換え(改札を別路線と間違え、駅員さんのお世話になりました)に汗をかきながら市ヶ谷へ。靖国神社をお詣りし、心身を落ち着かせ会館に入りました。

会場に入りすぐに芦田副会長と田所理事より声を掛けられ、まさかの研修受講報告の執筆依頼にびっくりしました。一瞬、どのようにお断りしようかと一所懸命考えましたが、よく考えて





## 2 世話役のつぶやき

7月の地域歯科保健研究会に参加して、半数ぐらいの参加者の顔がわからず、愕然としました。行歯会名簿でも世代交代がすすんでいるなどは感じていたのですが、改めて自分の立ち位置を考えさせられました。

「パブリックヘルスマインド イズ オールウェイズ フレッシュ！」と叫んでいたのは、いつの頃だったのでしょうか。若い世代に、この公衆衛生的心をどのように引き継げばよいのか、また、新たな世代の公衆衛生的心とは、と考えさせられました。

## 7 第44回全国歯科保健大会及び第31回全国歯科保健推進研修会開催報告

秋田県 健康福祉部健康づくり推進課  
技師 田所 大典

令和5年10月13日(金)及び14日(土)にあきた芸術劇場ミルハスにおいて標記の研修会及び大会を開催させていただきましたのでその概要を報告させていただきます。

はじめに大会についてですが、「『健口美人で健康長寿!』美の国あきたへ来てたんせ」をメインテーマとし、100年先を見据えた歯科保健の礎を築いていくことの重要性を発信しました。また、長年にわたり歯科保健の推進に御尽力され、栄えある表彰を受けられる方々を全国各地から秋田県にお招きできたことに、心から感謝申し上げます。

特別講演では、元プロ野球選手で参議院議員である石井浩郎氏から、「野球を通じて学んできた人生哲学」や「欠かすことができない健康の意義」について御講演いただきました。元プロ野球選手だからわかる、プロとしての野球の難しさやその裏側の人間模様、口腔の健康から全身の健康に至るまで幅広い内容をお話いただき、特に現役時代を知る参加者からは大変好評をいただきました。

次に研修会についてですが、「パンデミック後の口腔とウェルビーイング」と題し、東北大学大学院歯学研究科の科長である小坂健教授(地域共生社会歯学講座国際歯科保健学分野)に御講演いただきました。小坂先生は、私が行政の道へ進むきっかけをくださった恩師のお一人でもあり、[分野の紹介](#)にも「口腔を含めた個人健康が、我々が住むコミュニティや社会経済状況などと大きく関わっていることを明らかにし、行政等と協力しながら、よりよい社会を目指していこうとしています。」とあるとおり、全国からお越しになった行政関係者にとっても有益な時間になるであろうことを期待し、依頼させていただきました。また、全国から秋田県へのアクセスを考慮し、開始時刻を例年より遅くし、さらに、研修会後の意見交換の時間を十分に確保するために演者を絞り、参加者同士の交流の時間に重きを置く研修会とさせていただきます。

講演内容は、「新型コロナウイルスクラスター対策班としての最前線での活動」から「国民皆歯科健診の議論を皮切りに現行の歯科検(健)診の体制やその効果検証」、「口腔の健康と全身の健康に関する最先端の疫学的研究」に至るまで、行政職として施策立案をするにあたり、必要不可欠な多くの情報を共有いただきました。

秋田県でも基本計画改定の最中にある中で、歯科保健の目指すところについて再考しています。ともすれば、健康がゴールと考えられがちですが、実はその先にある健幸であり幸福こそが目指すところなのかもしれません。

人生山あり谷ありとは古くから伝え聞かれる言葉ですが、振り返ってみれば一瞬とも言われる人の一生。私自身、人生良いことばかりではないと頭では分かっているながらも、いざ苦しい状況に遭遇すると、「悪いあの人を非難する」か「可哀想な私を訴える」自分に辟易とする日々です。小坂先生の講演から、そんなもったいない時間は1秒たりとも存在しないのだと気付かされました。

最後に、人々の健康と幸福を維持する要因を解き明かすため、84年間にわたって追跡調査した結果から、人々の健康と幸福を維持する要因が紹介されましたので、直接お目にかかれなくともこうして行歯会を通じて繋がり、お世話になっている皆様にお伝えし、本報告とさせていただきます。

「健康で幸せな生活を送るには、よい人間関係が必要だ。以上。」



なまはげと共に集合写真  
なまはげ右斜め後方に小坂教授

## 8【報告】日本歯科医師会高橋英登会長を表敬訪問

奈良県 福祉医療部医療政策局健康推進課  
主任調整員 堀江 博【行歯会 会長】

去る、令和5年10月14日(土)秋田県で開催された第44回全国歯科保健大会で、日本歯科医師会高橋英登会長を表敬訪問しましたので、概要報告させていただきます。

大会の詳細については、[日本歯科医師会のサイト](#)で確認していただくとして、当日は主催者挨拶が、①大会実行委員会委員長(秋田県歯科医師会長)、②厚生労働大臣、③日本歯科医師会長、④秋田県知事、⑤秋田市長の順にありました。

高橋会長の挨拶に、「(前略)現状をみますと、都道府県や市区町村の歯科保健行政を司る行政職の歯科職は極めて不足していると言わざるを得ません。行政に歯科職が配置されている自治体とされていない自治体では、住民への歯科保健サービスに大きな差があり、そこに大きな問題があると認識しております。歯・口腔に関する健康格差の縮小に向けて、日本全国どこに住んでいても等しく適切な歯科保健サービスを受けることができるよう、引き続き日本歯科医師会は、都道府県歯科医師会と連携して、自治体への行政(歯科)職の拡充を関係方面に働きかけて参ります。」というお言葉があり、これは正に私たちのことを指して、日本歯科医師会がこのように認識していること、また、それを全国歯科保健大会の場で明らかにしたことに私は大変衝撃を受けました。

大会のメインは歯科保健事業功労者表彰で、主催者挨拶、来賓・主催者紹介の後、厚生労働大臣又は日本歯科医師会長表彰を受けられた個人・団体が表彰されました。

表彰終了後の舞台転換の休憩の時間帯に、大会運営スタッフとして入っていた地元秋田県庁の田所理事に便宜を図っていただき控室で5分程度でしたが、高橋会長と同席していた瀬古口専務理事に御挨拶することができました。掲載写真はその時のものです。終わってみて、この日は私たちの業務のニーズが大きいことが歯科業界内で理解され認められた記念日のように感じました。

来月の新年号は、高橋会長に御寄稿いただく予定です。



左から瀬古口日本歯科医師会専務理事・堀江行歯会会長・  
田所行歯会理事・高橋日本歯科医師会会長

### 「歯っとサイト(歯科口腔保健の情報提供サイト)」掲載コンテンツ募集!

「歯っとサイト」<https://www.niph.go.jp/soshiki/koku/oralhealth/index.html>では、掲載コンテンツを募集しています。掲載を希望される場合は、「行歯会だより」の配信メールに記載されている編集担当宛に御連絡ください。

#### ♪ 編集後記 ♪

「属人的な仕事はするな」、「個人的な思いだけで仕事はするな」というのは行政に入って以降、諸先輩方に再三指導され、私自身できているかは別として、後輩や部下に伝承してきた言葉です。ただ今月号では本来の黒子役(行政の裏街道を跳梁跋扈している腹黒の「黒子」と一部からは言われますが…)を外れ、個人的な思いの強い特集を組みました。御協力いただきました皆様へ厚く御礼申し上げます。

末筆ですが本年中は大変お世話になりました。皆様良いお年をお迎えください!(Y)

10月31日から11月2日までの3日間、日本公衆衛生学会総会が茨城県にて開催されました。数年ぶりに現地で学会に参加しましたが、多くの方と情報交換ができ、充実した時間になりました。日帰りの方や欠席の方も多かったと思いますが、12月末まで「[茨城デスティネーションキャンペーン](#)」を実施していますので、ぜひまた茨城県にお越しください!(I)

